

非血縁者間骨髄採取認定施設
採取責任医師各位
麻酔責任医師各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

骨髄採取後、抜管直後にけいれん発作がみられた事例について

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、非血縁者間骨髄採取術において、抜管直後にけいれん発作がみられた事例が報告されました。麻酔薬による薬剤性けいれん発作と考えられ、情報共有の観点から周知いたします。

記

■経過（当該施設からの報告より）

ドナー情報：20 代 女性 ※神経・筋・痙攣疾患の既往なし、膝前十字靭帯損傷再建術歴あり

Day 0

- ・術中著変なし。軽度覚醒遅延あり
- ・11 時抜管直後に後弓反張けいれん出現。ホリゾン 5 mg×4 回静注。CT：出血病変なし
- ・12 時 10 分 HCU 入室。入室後も 2 回けいれん発作あり、ホリゾン、ホストイン、フェノバールを投与
- ・15 時 30 分頃に一過性の呼吸停止がみられたが自然回復
その後、徐々に意識レベルは改善。MRI：器質的病変、血管病変なし
- ・画像上異常なく、意識レベルが徐々に改善していることから経過観察の方針とした

<使用麻酔薬>

- ・導入時エスラックスを使用、維持はディプリバン＋レミフェンタニル

Day+1 ホストイン投与。けいれん発作や呼吸停止なし

Day+2 抗けいれん剤の投与なし。意識清明だが、運動機能の回復は遅延

Day+5 運動機能、日常生活動作は、ほぼ正常に回復

Day+6 退院

- ・専門診療科受診予定であるが、現時点では、ディプリバンによる薬剤性けいれん発作として、見解は一致(血液内科、脳神経外科、麻酔科)している。

以上